

(別添3)

【矢板市】
校務DX計画

国のGIGAスクール構想に基づき、令和2年度から本市立の小・中学校で1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークの構築や、クラウドサービスの積極的活用など、急速に変化するデジタル社会に対応するICT環境の整備に努めた。併せて、子どもたちの発達段階に応じた情報活用能力の育成や探究的な学習活動の充実に努めている。

教職員においても、各校にGIGAスクール推進リーダーを任命し、ICTを活用した授業の推進や、校務支援システム（オンプレミス版）による学齢簿・成績管理の実務軽減などの業務改善に向けた支援を実施してきた。

今後、「GIGAスクール構想の下での公務の情報化に関する専門家会議提言」や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえた上で、教職員の働き方改革の一環として、校務DXに係る具体的な取組を次のとおりとする

1. 次世代型校務支援システムの導入検討

本市においては、先に記述したとおりオンプレミス版で運用する統合型校務支援システムを利用しているが、保護者連絡の汎用クラウドツールと連携や、会議資料のペーパーレス化、教職員等の事務処理における負担を更に軽減できるような環境を構築するため、学校現場における課題・ニーズを把握し、校務系ネットワーク・システム等の現状分析や望ましい校務のあり方に関する検討を行った上で、パブリッククラウド上で運用できる次世代型校務支援システムの導入を目指す。

2. ゼロトラスト環境の構築

本市ではこれまで、教育ネットワークを児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」と、セキュリティポリシーにより分離している「校務外部系」、児童生徒・教職員が教育活動で利用する「学習系」の3つに分離した3層分離構成である。今後、教職員の働き方改革と教育活動のICT化を目指す上で、ゼロトラストセキュリティ環境へ移行する必要があることから、アクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じたうえで、校務系・学習系ネットワークの統合について調査研究を進める。

3. FAX・押印の見直し

本市では、「学校と教育委員会間」「教職員間」「学校間」においてメールやGoogle workspace等を利用し、文書や資料等のデータ授受を行っているが、慣例的に外部団

体等との連絡にFAXを使用しているケースがある。

また、押印については、「学校と教育委員会間」「学校と保護者間」等において、法令等で押印が必要とされている文書以外にも押印を行っている場合がある。教職員等の負担軽減のためにはペーパーレス化や既存の校務系ネットワークや Google workspace の更なる活用促進とともに、文部科学省通知『「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」から、FAX・押印の見直しを推進していく。